



明日は

3月11日です。

学校では「3.11集会」を開き、震災に学び、種市をはじめとする被災地や被災された方々に思いを寄せます。

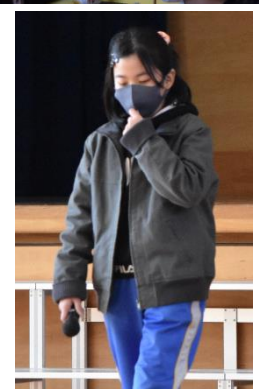
みんなの気持ちが集まって

受け継がれているもの ~6年生を送る会 その2~

2月26日の「6年生を送る会」。いよいよ6年生が退場する頃となりました。どこからか合図があったのでしょうか。2人の子が体育館の出口に歩み寄りました。ドアの開閉関係のようです。そして、入場のときと同じように、1年生と5年生がアーチをつくりました。その向こうでは、体育館の袖の小窓からあたりの様子を見ている子。退場の音楽をかけるために待機していたのです。この間、司会者からの指示もなければ、先生からの指示もありません。そういえば、前回、「静かにしてください」という注意が一度もなかったことをご紹介しましたが、振り返ると先生の指示も一回もありません。すべて、打ち合わせ通りであり、実行委員会のリーダーたちのささやくような声掛けによるものようです。

6年生の退場が終わりました。5年生の子がそっと1年生を誘導して席に戻っていきます。

こんなところにも、4・5年生の上級生ぶりが見られます。きっと6年生を見ていて自然と見習ったのでしょう。こんなところにも、「受け継がれているもの」が見つかりました。



6年生が退場したあと、会が成功したお礼のあいさつに向かう新児童会長八木沢花さん

今回の6年生を送る会は、おうちの方々のご招待できませんでしたが、学校評議員や地域教育協議会の方(教振実践区の代表の方々など学校運営を支えてくださっているの方々)のなかでご都合のつく方(わずかな人数ですが)には、学校や子ども達の様子を見ていただきました。そして午後の会議(学校表評議員・地域教育協議会合同会議)で、子ども達の様子について感想をいただきました。

子ども達が生き生きとしていました。しかも整然としていました。これまでの伝統を受け継いでさらに新しい工夫もあって、先生達が指導をがんばっていることが伝わってきました。

先生方が細かにかげで教えていることが分かりました。小さな子を世話している高学年の子に感心しました。

「感謝に気持ちを伝えたい」という気持ちが伝わってきました。6年生の思いやりも伝わってきました。

集団でいるきちんとした姿に感心しました。

上級生がそっと手をとって教えていました。やさしい子ども達です。このなかに、自分の子がいるというのがうれしいです。

不自由でしょうが、マスクが徹底されていてその中で頑張っていました。今日だけでないいつもの指導がしっかりしていることがわかります。

子ども達への励ましを

ありがとうございました

クラブの紹介、最後の委員会活動

階段の壁に、クラブの紹介が掲示されています。来年度にクラブ活動を行う3年生に、そして全校の友達にむけての掲示です。6年生にとっては、クラブ活動のまとめにもなったようです。

3月2日(火)には6年生の最後の委員会活動がありました。下級生に仕事を教え、「あとはしっかりね」と活動が終えました。こうして、だんだんと6年生の仕事が下級生に引き継がれていきます。後を背負う4・5年生はどんなことを思うのでしょうか。そして、引き継ぐ6年生はどんな気持ちがしているのでしょうか。……。



期待と不安

まだ2月だったでしょうか。朝、校門のところで会った6年生の小林海さん・稀さん兄弟に「もうすぐ春ですね。中学校への進学も目の前に見えてきましたか？今の気持ちは期待？不安？」と聞いてみました。するとどちらからともなく「期待もありますが不安もあります。」と。また、先日、朝、玄関で待っている6年の竹高勇人さんにも聞いてみましたが、やっぱり「不安もあります。」とのこと。どの子も中学校への期待が膨らむ反面、環境が変わることへの不安もあるのだなあと思いました。大人でも、引っ越ししたり転勤したりするときには不安になるものですから、子どもならなおさらだと思います。もしかすると、進学する6年生だけでなく、1～5年生も、クラス替えがあったり担任の先生は替わったりするこれからの季節は心配になるのではないかと考えます。

ですから、先生方で、「そんな不安な気持ちを上手に乗り越えさせよう」と話しています。たわいもないことでも互いに話したり聞いてあげたりすることで心配をやわらげることもできます。また、あえて「そのような心配ごとに負けないぞ」という気持ちを持つことや、目標を立ててさらに前に進むことも必要です。そうやって、何度か“心配ごとを乗り越える経験”を積むことで、次に来る心配ごとにも立ち向かっていけるようになるのではないかと考えます。

子ども達は、不安になると、「落ち着かないで騒がしくなる」、「トラブルが起きる」、「悪口・ぐちをいいたくなる」、「ものが壊れる」……、ということが見られるようにもなりがちです。

ですから、普段通りに当たり前のことを当たり前に行うということも大事です。6年生の学級通信「みんなのわ」に、「卒業式の日も全員そろい『いつも通り』登校し『いつも通り』朝の会をし、めあてをもって最後まで……。」とありました。大切なことを言い当てていると思いました。

「学年が変わる、通う学校が変わる」という特別な“区切り”が近づいていますが、これまでの成果をかみしめつつも、心を整理し穏やかに、毎日を積み重ねさせたいと思います。そうしていくことでいつの間にか不安は消えていくものと考えます。そうやって、不安を乗り越えていくことを覚えさせたいと思っています。

春をまつ



メインホールに2月から飾られていた「おひな様」(地域の方:大光栄子さん寄贈)が、児童会目標の反省に掲示に替わりました。「おひな様か、もうすぐ春だな。」と思っていたら、3月3日も過ぎ、「いよいよ春がくる。」という気持ちになります。

メインホールには、1年の締めくくりをするために、児童会スローガン「最協～種小っ子全員でつながって未来の道へ進もう～」の振り返りの掲示が行われています。スローガンを達成した子ども達に見立てた絵が手をつないだようにして貼られています。

